

---

**原作なんですかそれ？好き勝手やりますけどなにか？**

生っぽい生のも

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

原作なんですかそれ？好き勝手やりますけどなにか？

### 【Nコード】

N1428T

### 【作者名】

生っばい生のも

### 【あらすじ】

オリ主転生。チートで何悪い？そんなこんなでオリ主が原作をブレイクしたり、しなかったり、原作って何？生ものって何？特に目新しい事は起きません。オリジナル主人公が中心の普通の話ですけど何か問題でも？ 作者妄想癖あり。夢遊病あり。銀髪ロングふえちで男の娘もいけますけど？何か？？ロリ？むしろド真ん中寄りじやネッ。

## ブログ的生もの(前書き)

はじめまして。生っぽい生のも です。生ものですけど何か？

という訳で、ネギま初のオリ主ものです。……え？初じゃない？そんなバカなWWW

検索中……

そんなバカな！？

エ、改めまして、何番煎じが分かりませんがネギまオリ主ものです。一話づつは短いですが…投稿も不定期ですが…文章能力ないですが…何か!!？

ゴホン。そんなわけでお付き合いください。誤字、脱字、この文章おかしくね？、この作者頭よくな！などありましたらどんどん感想ください。待つてます。

ちなみに、作者のライフは1,000,000ほどですので…ゆとり社会に漬け混まれていますので、言葉の暴力は…効果バツグン!!！よろしくお願いします。

## プロローグ的生もの

はじめまして。オリ主です。

ああ〜よくあるよね。僕の近所でも先週三人したよ。

つてな具合に転生しました。ネギまの世界だそうです。

一余神様の物体Xからチートの能力ももらいましたよ。

当然じゃないですか？オリ主として転生してやるんだから正当な報酬ですよ。

エッ！どんな能力もらったかって。

知りたいの？知りたいんだ？そんなに知りたいんじゃ教えてやんよ

…箇条書きで。

- ・世界最強の魔力
- ・世界最高の身体能力
- ・世界最高峰の剣術&体術
- ・世界最長の頭脳
- ・世界最弱のハート
- ・世界最低の良心
- ・世界最下層の生活
- ・世界最速の寿命
- ・世界最下級の存在！？
- ・世界最高責任者は誰？
- ・世界最高度成長期はいつ？

あれえ〜変なのが2/3くらいまじってね？

まあ、いいや。「これ下さい。」ってお願いしたよ。上から見下ろして。

結果から言っとだね。

「いや。無理。能力一個じゃから。」だって。ワロスｗｗｗｗ。コロ  
ス：  
ド・チクシヨ　！！神様の物体のクセしやがって。ふっ所詮モブだ  
からな。許してやるか。  
俺心広っっ

あれ、でも逆によかったのか？

プログラーグ的生もの(後書き)

マジ…ミジケッ

森での出来事っばい生もの(前書き)

ども！生っばい生のもです。注)生ゴミではありません。

即効で二話目です。それだけです。

特に語る事もないです。落ちもないです。ヒロシで「ドハッ」…  
血、吐いたんですけど。死後…死語でしてね。

では今回もよろしく。

## 森での出来事っぽい生もの

ドーモ。オリ主デス。

あーダリッ

あー、今森にいます。森！森！！森！！今森にいます。唐突で意味分かんないですよ。俺も意味分かりません。転生したら森にいたんですよ。森に。エッしつこいって。知ってますwww

そんなわけで、今森から出ようとしてるんですが・・・テクテク・・・テクテク・・・テクテク・・・

え！特に書くことないですよ。歩いてるだけですし…

どもー！オリ主です！今回も始めました。オリ主転生記！パチパチパチ

今崖を見上げています。森ですけどね、マダ。

まあ、目の前にすつこい高い崖があるもんで、「あそこから落ちたら間違はなくご臨終」なやつが。

……ここでちょっと俺の容姿について説明しますね。説明しますね。

では、歳は13くらい。髪はお尻まで届く銀髪ストレートロング。  
若干青見がかつてます。

身長は160前後、体形は同年代の男子に比べるとやや痩せ形、目は深い藍色。顔は中性的で整っていると思いたい。左足は膝から下が無く、左腕も肘から下同様。右足は人ならざる方向に曲がり、右腕は人の範囲内にはおさまっている。あと、これは俺の個性と言って差し支えないだろう、ちょうどお腹の真ん中付近から直径80?くらいの先端が鋭利な円錐状の材質おそらく木!的物が生えている……。

あつ。後今死にそうだ。

回・想!

ハッハッハッハッハッハッハッハッハッハッ。

「っ!!!」

ハッハッハッハッハッハッハッハッ。

ハッハッハッハッハッハッハッハッ。

「なんでやねんっ!」「なんでやねんっ!」

はい。今野生の獣に追われています。

「なんでやねんっ!!」「なんでやねんっ!!」

何か、ある日森の中で獣さんたちに出会ったんだよね。

で!!!

よくあるでしょ。走ってたら急に進まなくなつて、横から見たら足元に地面が無いやつ。

走ってるかっこのまま空中で止まってるあれ。

そうだよっ！！落ちたよ！！あの「あそこから落ちたら間違いなくご臨終」な崖から！！

足は折れるは枯れた木の幹に腹刺さるは…死にそうですっ！

今、チート能力使ってなんとか生き残ろうとしている最中の、走馬灯的解説です！

とりあえず、概念は、『肉体再生』と『死なない』にして、残った右手に作ったピン出して。

飲む！あっ中身ドリンクです。

ついでに枯れた幹を背中のあたりから折る！！

ベキッ ドスツ ベチャ「ぐはっ！」

は〜やつと地面。左の手足もくっついてお腹もふさがってきたし、助かったあ〜。

え？なんで助かってんの？って。悪いのかよっ！俺主人公だかね！違う？え！俺主人公じゃないの！？

違う？どうやって助かったのか？チート能力使ったってさっき書いただろっ。アルツハイマーか？

なに？能力説明されていない？ただろ一番最初に！

で、貰えなかったって話は書いてあった？あるえ〜？そだっけ？

「ゴホンッ」

説明します。

とりあえずは、能力一個しかくれないって神モウが言っもんで、こんな

のにしてみました。

・あらゆるものを無条件でいくらでも創れる力

シャツ！勝ったっつ！……何に？

なんだけど、あのモブ神また条件だしやがって。こんなになりました。

・あらゆるものを無条件でいくらでも創れる力

・物の場合：無条件でいくらでも。これは良し

・者の場合：自分より同格以上の存在、現在世界に現存する生命体は創りだせない。

製作者が与えた魔力が無くなると消滅するが、補給は可能である。

製作した物が知的生命体に生命体であると認識された時点で物から者に代わる。

者に変化した場合、条件を満たしたいなければ、優先的に消滅する。

こんな感じ。

ちなみに能力の使い方なんですけど、概念……まあ、条件みたいなもんですね。くの効果を持たせる。とかくの条件を付ける。とか。を持たせて、あとは形を決めてチェリオツってな感じですね。

え？よくわかんない？特に形を決めてから？シャーネエだろ！こんな感覚なんだから！

とりあえず、森を、…森を、……森を！抜けてから、原作介入しますかね。

目指せ麻帆良学園都市！！

なんか創りながら行こつ。

にしても、いつまで続くこの森……

## 町と言つ名の生もの(前書き)

はいはい。生っぽい生のもです。第三話目です。原作キャラが出てきません。

出るまで書けよとかいわないで。

小生は。長時間執筆すると下痢になるのです。

なら、しかたない。うん。仕方ない。

と言う訳で次回は出せるかな、原作キャラ。出せるといいな。さて！誰が出るでしょ〜。

次回、ツインテール現る！

## 町と言つ名の生もの

こんにちはっ。オリ主チートです。チートですっ!!

いや、改めてこの能力すげーチートだな！とテンションあがってました。

ここ数日色々試してたんですがねwww いやマジ笑い止まらないっす。す。す。す。

あ。今、町にいます。いや、町ってゆうか村？村かな。

今、村にいます。最初は麻帆良学園都市あたりの森かな？って思ってたんですが。あの学園やたら森あるでしょ。夏とか虫と多そう。家の周り沢山いたら・・・引くわ。

で、結局は違つたみたい。と言うか日本ですらねーし。周り丸々思いつきり西洋建築ばっかだしね！

とりあえずは、ここがどこでどうやったら日本にいけるか！をここ数日調べてたんですわ。

ガラガラガラガ

「おつとつ」

ガラガラガラガラg

そんで、村をいくつか渡り歩いてたんですが・・・村の男どもの視線がヤバいんです。

「銀髪ロリタン・・・ハアハア」

「女のコ？男のコ？・・・どっちでもYes!!」

「ロリ!?!・・・ハアハアハア」 ついてくる。

ダメでしょ。

中性的な顔立ちゆーたけど、どっちかてーと女顔らしい。身長も低いし細身だから、なんか勘違いしてる男どもがキモイ。

そんなわけで、能力使ってアイテム作成っ！ほら、前回作ったポピタンDみたいに。

そんなモン作ったかって。作ったでしょ。前回死にそうになるとき飲んだドリンク。あのビン、リ ビタンDだよ。すごいよね。我詩のマークの大笑性薬！

で。

今回作ったのは認識阻害系アイテム。

- ・ 魔力によって発動。
- ・ 発動中は常に魔力消費。
- ・ 魔力の使用量によって認識阻害度変化。
- ・ 認識阻害対象は使用者の姿、身に着けているものも含む。魔力。気。声。

・ 認識阻害対象は任意に選択可能。

・ 認識阻害対象者は任意に選択可能。

こんな感じに作ってみました。形状は指輪ね。持ち歩くの大変だし小さいほうがいいでしょ。

パツパツと作ってみたんですが、ここで重大なことに気づきます。

あつ。俺、魔力無いじゃん。無いじゃん。ジャン。

なんたるケアレスミスッ！！いや！むしろミスッ！！

ドーシヨー。と、悩んだ末に。じゃあ、魔力を得られるアイテム作ればいいじゃん。と言う結論に達したわけです。ハイ。

こんな感じ。

- ・これを摂取した対象者は永久的に魔力所持者と同様に魔力を得る。
- ・獲得できる魔力量は不明。

- ・味は苦い。

- ・フルーツ味は作れない。

- ・チョコ系なら何とか。

こんなんできました。ちなみに錠剤。∴味かんけーねーし。

早速飲んで指輪を装着。……おお〜。周りの視線が急に無くなった。思ったよりも魔力も使わないようだし、自分の才能が恐ろしい。

で、今に至るとっ。

次に、ここしばらくで得た情報を整理すると。

- ・ココ、マホラチガウ

- ・ココ、ニホンチガウ

- ・ココ、ty「おつと」

ガラガラガラ

ダダダダダダダダダダッ

今、危なかった。え？何が危なかったて？

馬車だよ。馬車。後騎馬ね。騎馬。

騎馬が早いのはわかるけど、馬車も意外と早いんだぜ。あと、馬でかいから威圧感半端ないし。

まあ、考え事しながら歩いてる俺もよくないんだけどね。

そうそう、続き続きと

・ココ、ココ……現代違うっ！！馬車とか騎馬とか意味わかんないんですかど！

中世だよ！！中世！！

麻帆良とかいってる場合じゃねーよ！あと何百年待つんだよ！

はあ。

そうです。時代自体が違いましたWWW

どーすんだよ。これから。

原作介入無理っぽい。

町と言ひ名の生もの(後書き)

なわけ無いじゃんWWW

## 森での出会いは生もの（前書き）

メルシ〜。生っぽい生ものです。

誰への感謝つか？って……。

自分に決まってるでしょ。

というわけで4話目です。

いやあ〜。今回はちよっと長めに書いたつもりなんですけどね。  
長文ダルッ。

内容は薄いけど。文字数だけは稼ぎました。

あつ。あと作者は文章表現能力が著しく欠如しています。ご注意ください。

あと、

誤字。脱字。感想。称賛待ってます。

## 森での出会いは生もの

こんにちは。オリ主天才チートです。

誤字がある？天才じゃなくて転生？……………あっっ！！

確信犯ですけど何か？

てなわけで、森 町ときて、……………今、森にいます。なんでやねんっ！

「なんでやねんっ！」

いーやあゝ。あれから結構経ってますよ。どれくらいかって？正確なところはわかんないんだけど。

幼女の孫がババアになるくらい。かな？

え？じゃあー、お前もジジイじゃん。って？いえ、まだ愛くるしい13ロリボデーですけど？？

頭と一緒に成長してないじゃん。って？はっ！（鼻で笑ってやりましたよ。）

ええ。バカにしていますよ。

飲んだでしょ。リポビタ D。よく見ました？ちゃんと概念に『死  
はない』ってあったでしょ。あれのせいだと思っんですよね〜。

あつ。……知ってました。最初からそういう風に作ったんですよ？

あれ？幼女がいつの間にかにババアに？俺見た目変わってないんで  
すけど？

…あえ？幼女の娘がババアに？俺成長してないんですけど？

……あれ？もしかしてリポ タンDのせい？  
死なない…？

原作介入できんじゃないっ！！！！

とか、思ってますんよ。最初から知ってたし？前話に「できっかな  
って書いてた？

いいよ。じゃあ、後で修正かけとくよ。あれ、なんか電波が？

あつ。それですね。このうん十年色々ありましたよ。それは壮絶

に。まあ、あまりに多いんで簡単に箇条書きで。  
・アイテム作ってた…

……それですね。このうん十年色々ありましたよ。  
で！今なぜ森の中に入るかいいいますと。

そろそろ、人に合うのがウザくなってきたんですね。ええ、わかります？

いろんな森に行きましたよ。それはもう。森から森へ。それで、今この森にいます。どの森？って。森は森としかいいようがねーんだよ！

ちなみに、食料とか、生活必需品とかは、村かこっそりかつぱら…借りてます。大漁…大量のときはお金置いてますよ。能力でつくたやつ。

経済崩壊？なにそれ？

「！」

人が近くにいますね。5…6。いや7人か。それとも8人か。まてまて、9人の可能性も。10人も捨てがたい！11人はオーシヤンだね。12人は…

サーセン。調子乗りました。8人です。正確には7人と1人…かな？追いかけているのか？1人を。

ん！追い詰められたか。最近流行の魔女狩りかな？村のファッショ

ン雑誌の見出しにも、デカデカと『今年の春は魔女狩りでキマリっ  
！！』って。

じりじりと包囲を狭めてるな。ありやもう逃げられん。え？なんで  
そんなに詳しくわかるのかって？そりゃ俺がチートだからだよ。

すみません。嘘つきました。すぐ下にいます。自分、木の上つす。

いやあ。いきなり人の気配がしたんでとっさに木の上に潜みまし  
た。シュタツ！って。ついつい刀まで出しちゃいましたよ。ビビリ  
じゃないよ。

え？刀ってなに？…知らないの？日本人？バカなの？クズなの？あ  
っ！バカなんです。クズでもある？わかります。

そういうことじゃない？なんでいきなり刀が出てくんだ？脈略がな  
い？なんで俺がそんなことに気を使わなくちゃいけないんだ？その  
ほうが疑問。

しゃーねーな。教えてやんよ。この俺様が。

簡単に言うとなりで作りました。あつ、ついでに、どこから出した  
かと言うと。亜空間です。これも、能力で作りました。テヘッ

箇条書きで説明しろ？いつものように？…ハイハイ。

・刀つっくた

・能力でつっくた

・大変だつて…違つ？刀の能力？あーあーあー。そっちな。

- ・この刀は切るという概念で作られている。
- ・魔力により能力発動。
- ・使用すると自動的に一定の魔力消費。
- ・使用者が認識できる範囲であれば切ることができる。
- ・これは刃<sup>は</sup>によって切るのでなく、切るという概念で切る。
- ・切り方。切る回数は使用者のイメージに従う。
- ・切るという概念を阻害されなければ必ず切れる。
- ・魔力量。技術により切れ味は変化しない。
- ・鞘から半分以上抜けば使用可能。
- ・再度使用するには一度鞘に完全に収める必要がある。

こんなとこかな。見た目は一般的な日本刀。細かいところは、読者の妄想で補ってくれ。

もう一個。亜空間のやつね。

- ・亜空間形成。
- ・開時、新規取り込み時のみ魔力使用。
- ・大きさ。重量などの制限はない。ただし、生命体は不可。非物質も不可
- ・使用者がイメージした物。使用者が接触している。他生命体が接触していない。この条件を満たした場合取り込める。
- ・使用者がイメージした内容物を取り出せる。
- ・使用者が亜空間生成アイテムに接触していないと使用できない。

見た目は銀のブレスレット。着用者に合わせて大きさが変化するから、デブでもぴったり！スゴイ！！

い〜や〜。あの日々を思い出すな〜。永遠のライバルとの壮絶なナンチャラカンチャラ。

伝説のモンスターとのナンヤカンヤ。

世界を滅ぼす悪の何かとのウンタラカンタラ。……そして、救い出した見目麗しいお姫様との…ウヒビィ…。  
懐かしい日々です。

え？そんなことが…。無意味なことしかしないで生きてきたのかと思つてた。ごめん。つて？そんなこと気にするなよ…。

全部…妄想だから。しかも、薄ぼんやりとキャラが定まっていな感じの。

こんな、説明してる間にも状況が変化してるwww  
完全に囲まれてやんのwww

こつからだど、ちょうど木の枝が邪魔で追い詰められてるヤツ見えないんだよね。残念。

小さいことはわかるけど。後、女。魔女が男とかキモい。

「やっと追い詰めたぜ…ハアハア」

「もう逃げられないぜ！魔女め…ハアハア」

「貴様のような魔女がいるから…ハアハア」

やけに息が荒いなー。

「幼女なんだな…ハアハア」

「ツンデレサイコー…ハアハア」

なんだ。変態か。

どれ、そんなにいい幼女なのか？お顔を拝見。

「っ！」「……。」

でもなんか、あの変態どもムカツク。ちょっと昔を思い出しちゃったよ。

「……。」

…この罪は償ってもらわないと。後、やっぱここからじゃ枝が邪魔で幼女見えねーし。

しゃーね。助けてやるか。変態から。

てなわけで……チートオリ主よる、ご都合主義戦闘を始めますかつ！

ジャンプッ！

クソッ！ クソッ！！ クソッッ！！

なんで！なんで、こんな奴らに追われなければならないっ！

なんで、この私がつ！！

私だって好きでこんな体になったわけではない！！

なのにつ！？

屋敷の自室。寝ていた私はなんとなく魔まされて起きた。

何だろう？あれ？窓の外が明るい。…紅い。

私は、家を焼け出された。鎮火した屋敷の中には黒こげの死体が5  
体…。

父。母。使用人。逃げ出した外に、誰もいないわけね。ははっ。

なんで？なんで？

あれ？なんで私、人の首に噛み付いているの？なんで？ あっ。でも、おいしい。なに？この飲み物？

ソウカ。コレハ、シヨクジダ。

ソウカ。ワタシハ、モウ、ヒトジャナイ。

なんで、家が焼けた！？なんで、家族が死んだ！？

ドウデモ、イイ。

イマハ、シヨクジヲ。タノシモウ。

あらから、色々学んだ。学習した。

人に正体を知られてはいけない。

私は死なない。

化け物。

人は、私の正体に気がつく。

…避ける。

…逃げる。

…殺そうとする。

…殺されそうになった。

…殺した…。

どんなに、心優しい人でも、私の正体を知れば。必ず畏れる。嫌う。排除しようとする。

例外なく。

『魔女狩り』

くだらない、人間の主張。虫酸が走る。

まあ。今そんな人間に追い詰められているのだが。

魔力も底を尽きた。何十人もいた人間をここまで減らしたんだ。上出来だろう。

怒りは有る。憎しみも。

でも。もう疲れた。人間に忌み嫌われるのも。人に忌み嫌われるのも。

自分。どんどん化け物になっていくようで。

……ツカレタ。

アアア。ウエカラ。ナニカガオリテクル。キラキラシテイテ。…キ  
レイダ。

アレハ。ナンダロウ？

アレは、人か？

そうだ！人だ。腰より長い銀の髪。陽光が反射してキラキラしている。キレイ。

でもなぜ？こんな所に人が？背中しか見えないが小さい。子供？

あの、下種な男どもと私の間に。

男どもが何か叫んでいる。良く聞こえない。

「……どけ……。」「よう……。んだ……。ハアハア」「ころ……。ゾ  
！」「こいつ……。かまか？」

男どもがいらっ立っているのはわかる。

マズイ。

何をしているっ！！！！早く逃げろっ！！！！

「……………」

…声にならなかった。

ああ。私がこんな化け物になってから、初めて綺麗だと思った目の前の少女が下種な男どもに殺される。

目の前の少女？は綺麗に装飾された多少反りの配いった棒？のような物を左手に持ち立っているだけ。

このままでは。ホントウニ。

「ウザイ。」そう、少女？の方から聞こえてきた。少女は右手で棒？の上の方を持ち、左手と右手の距離を離す。

何かが。出てきた。光に反射して輝く。それは。刃。

あれは剣かつ！

「っ！！っつ．．．。」

その瞬間。胃から胃液を戻しそうになった。

殺気。

恐ろしく濃度の高い。それだけで、人を殺せると言えるほどの殺気。自分に向かられていないことがわかっていても恐怖してしまうそれ。

殺気は一瞬のうちに霧散する。半分ほどまで抜かれていた剣はすでに鞘に収まっている。

視線を先に移せば。おそらく、哀れに動けなくなっている男どもがいるはずの場所。

ただ赤が広がる少女の先。

「赤？」思わずその口をついた。

少女の先には……上半身がない下半身。地面に落ちている上半身。吹きあがる真つ赤なそれ。

血。

男たちだった物がそこにあつた……。

おそらくは男たちを、『だつた物』に変えたであろう少女がこちらを向く。赤一色の背景を前に立つ少女。「綺麗だ……。」私は場違いにもそう呟いていた。

少女が言葉を紡ぐ。

「名前は？」生絵は？何を言っているのか理解できない私の頭。ああ。名前か。

「エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル」そう答えていた。

敵が見方か。これから敵になるのかもわからないのに……。

これが、最初の出会い。

## 森での出会いは生もの（後書き）

原作キャラ出てきたよ。このまま出ないで完結するかと思った。  
満足じゃ。

住処確定した事についての生もの（前書き）

色々と。色々と。

人生がメンどくなりました。生っぽい生のもです。

5話書きあがりました。肩こりハンパないんですけど・・・。

今回はキティちゃんと出会うお話です。

若干作者の記憶があいまいでキャラがブレブレですが、気にしないでください。

誤字。脱字。この文章おかしくね？むしろ、おかしいよね。作者の才能に羨望。

などご意見待ってます。

## 住処確定した事についての生もの

どもども。オリ主です。

なんか、キモくてトサカに來たので野郎どもをバツバツサと（攻撃1ターンしかしてないですけどね）ぶった切つて。  
さあ、幼女だ！と、振り返ってみれば…金髪幼女がいた…。いやまあ、最初からそういう話なんですけど。

思ったより幼女でした。意味分かんないですよ。……エヴァタンでした。

若干テンパってました。

そりゃこの話の流れならエヴァタンイベント発生するよね……！  
言い間違いました。テンパってます！

いきなり名前聞いちゃいましたよ。ついでですよ。つい。

そんなわけで自己紹介されました。

「E v a n g e l i n e A . K . M c D o w e l l」…ある  
えー。なんか前回と名前の言い方がわね？読めないんですけど…。

まあいいや。

エヴァンジェリン・A・K・マクダウエル。

「エ…ヴァン…ジェリン・A・K・マク…ダ…ウエル。」

口がうまく動きません。人と話すの100年ぶりくらいですから仕

方ないんですけどね。

「エヴァンジェリン・A・K・マクダウエル。」

おお。少し流暢になった。

「E v a n g e l i n e A ・ K ・ M c D o w e l l ?」

まで。流暢になりすぎだ。

とりあえず、落ち着いてきたんで幼女：エヴァタンを視姦。もとい  
観察。

ん。手足は泥だらけ。金髪のロングヘアも汚れボサボサ。しかも  
足は裸足。外傷はないようだ。ああ。すぐ治るんだっけ。で。服は  
元々ドレスっぽい。ドレスよりもおうちよつと質素かな。な感じの  
服で有ったろう。ボロボロだ。色もくすんでいる。左肩の部分は破  
れ、ドレスのすそは解ほれている。

・・・何より。浅黒い染み。染み。染み。

ありゃ血だ。この時代、魔女狩りがブームになったおかげで多くの  
女性が被害にあったはず。

エヴァも例外ではないだろう。正体がばれば間違いなく迫害を受  
ける。

魔女として。殺される。

おそらく、何度もそんな目に有ってきたのだろう。そのたび傷つき、  
傷つけ。

その証があの染み。浅黒い染み。

「はあ。」

「エヴァンジェリン・アタナシア・キティ・マクダウエル。」  
「着いてくる？少なくとも、今よりはいい暮らし…出来る。」

「！」

「お前！私なんてあるか分っているのだから！？」

もちろん知ってますよ。

エターナル・ロリータ

合法ロリ

あと、ついでに吸血鬼。真相のな。

「吸血鬼」

「ならっ！…！」

いや、吸血鬼だから合法ロリなんですよWWWむしろ感謝です。ええ。感謝です。

「問題ない。気にしない。」

「いいのか？後悔するぞ？」

え？合法ロリと一緒に？……まっさか！

はっ！！ロリコン野郎と後ろ指差される！？……俺も見た目ロリボ  
デーだから問題ないし。

「そんなに弱くない。」

「！　そうか。」

「着いてくる。場所。移動する。」

「あ？あぁ。」

「人が来ると面倒。もっと奥に行く。」

そんな感じで、俺、走り出しました。

結構走つてきましたよ。なんか森慣れしてきてる……。

で。キティちゃんは。…しっかり着いてきてます。必死に追いか  
けてきちゃって！カワユイ！

それなりの速さで移動してるんですけどね。さすが、真相の吸血鬼。  
あんなボロボロでもしっかり着いてきてます。

え？なんでお前が真相より早いんだ？って。それはですね。森で生活してる内に凄い身体能力が身につきました。

嘘こきました。サーセン。サーセン。

なんとなく予想付くでしょ。チート能力で作ったアイテムですよ。アイテム。

最初に作った ポビタンD。

折角リポ タンDも作ったんですから。ンケルとか液キャとかも作りたいじゃないですか。ね。

作りました。速攻で！

ユケル

- ・ 一度の摂取に付、一定量の身体能力上昇。
- ・ 上昇する身体能力は使用者が身体的能力として認識しているすべての能力。
- ・ 複数回摂取可能。ただし、24間以内に2本以上飲むと85%の確率で下痢になる。

液 ヤベ

- ・ 飲みすぎ、胃のもたれ、二日酔いを治す。
- ・ ドロツとしている。
- ・ 不味い。
- ・ 元がキャベツとは到底思えない。
- ・ 魔力。気力。精神力。体力全回復。

こんなんでました！

別の目的も見越してこの概念を付与したんだけどね……。覚えている？俺のもう一つの能力。まだ一度もそれで作った者を見てないでしょ。

あれ、大変なんだよ。使用者以上の存在はくってやつ。オリジナル虫作れなかったら、俺存在虫以下だよつ！！

なに？この能力。コワイ。

って訳で。能力使う前に色々小細工したんですよ。その一環としての上二つ。

結果からいうと、<sup>アイテム</sup>者作製は成功しましたよ。まあ、生き物なんで亜空間には入れられないんで、ほかの所に置いてきてます。

とまあ、そんなわけで、身体能力ハンパないことになってます。一日1本！Powered by ユン ル！

瞬動？俺の徒歩が瞬動です。みたいな。……サーセン。冗談です。調子乗りすぎた。

でも、世界トップクラスだと思います。だと願っています。だと信ずる他にありません。



「今晚の夕食の材料調達」

「今からか？」

「……コク。」

「住むところ作ってる。」

家建てる所いきなりキティちゃんに見せちゃうと驚いちゃうからね。亜空間からドーン！と出てくるし、家を建てる間の厄介払い。

え？食材調達も大切だ？って。知ってるよ。そんなの。

でも、亜空間内に一杯有るんだよね。食材www

「おまえがか？」

「……コク。」

「で。私が食材調達と？」

「……コク。」

「はあ。わかった。言う通りにしよう。っと。名前を聞いていなかったな。」

「……」

「ム。私は名乗ったのに、お前は名乗らないのか？……その、私には教えてはゴニョゴニョゴニョ。／／／／／」

「？」

「いいからっ！！さっさと教えろっ！！！！／／／／／」

名乗らないのか？って言われても…俺名前ないんですけど…。言われて初めて。あー。俺名前ないじゃん。って気がついたんだよね。

H A H A H A !

だって。転生してからほとんど人話してないし。もちろん名前なんか聞かれなかったし。自分でもずっと忘れてたけどWWW  
…ドーシヨウ。

「……………」

「私なんかには教えたくないのか？」

そんな。そんな！ウルウルした涙目で見られたらっ！！！！

意地悪したくなっちゃうじゃん！あつ自分。怒Sです。

「…ご飯食べてから…。」

「…わかった。夕食の後だな！！絶対教えてもらっぞ！！」

ああー。キティちゃん走って行っちゃったよ。

問題は先送りって感じで。夕食までには考えておくさ。

さーてと。家。作りますか。

はい。建ちました。え？間のサクセスストーリーが無い。って？だってサクセスしてないもん。前作ったやつがあったのでそれを亜空間から取り出しただけです。

まず。この辺の草木を一掃。家を建てる分+庭の土地を確保したら、あとは亜空間からドーン。でおしまい。  
なんでそんなもん持つてるのか？って。この世界で1000年くらい生きたんですよ？家ぐらい作るでしょ。普通。

他の家を参考に能力で作ったんですけどね。

・ログハウス風家。

- ・機密性に優れ隙間風などはない。
- ・耐久性に優れ、核でも耐えられる。ただし。燃える。
- ・外装。内装など初期製作時に製作した物は、傷、破損しても2時間〜12時間で完全修復する。
- ・外部。内部の汚れ、誇りなどは一定期間が発つと綺麗になる。
- ・後付オプションとして魔力動力型冷暖房も付けられる。
- ・初期オプションとして電気、火、水、は標準装備。（魔力により使用可能）

一般的なログハウスだね。何の変哲もない。

はあ〜疲れた。

疲れるほどのことしてないだろ。って？説明で疲れたんだよ！！

とりあえず。自分の部屋見てこよ。

ちなみに。川辺に建ってます。約2・5階建てくらいの2階建。0・5は地面から1階の床までの高さ。ちよつと浮いてるんですね。1階はダイニングキッチン、リビング、バスルーム（5人位入れます。）、トイレ、倉庫。あつ洗面所もあるよ。2階は8畳の部屋が8つとトイレ。後。1階部分からは川にちよつぴり掛るくらいの大きめテラス。

「なんだこれはーっ！ー！」

お！キティちゃんが帰ってきたみたいだ。  
外だよ。

「おい！これは何だ！ー！？」

「キティ。お帰り。」

「え？あ、ああー。／＼／＼ただいま。」

カワイイ！

「ってっ！までー！ー！なんでその名を知っている！ー！！」

「名乗った…。」

「え？」

～～～回想～～～

「エヴァンジェリン・A・K・マクダウエル。」

～～～回想終了～～～

「名乗ってないだろ！ー！！」



「コク。」  
「キティ。」

キティちゃんとの距離を詰めた。眼前まで顔を近づけ。  
真っ赤だよ。キティちゃん。カワユイ。

「……………」

「……………」

「…お風呂入った方がいい。」

「……………」

キティちゃんは自分のロリボディーを見回して。

「…ああ。」

とだけ言いた。

ただいま、夕食中・・・

「ひとつ、聞いていいか？」

「なに？」

「なんで、私が採ってきた食材と今ここにある料理の食材が合わないのだが？なぜだ？」

お風呂に入って肌はツルツル。紙はツヤツヤになったキティちゃんがそんなことを言うてくる。

ちなみに、服は俺が作った。白いワンピースだ。

おっと。睨まれた。食材が違うだけ？

ふう〜。仕方ない。ここは、華麗にスルーしよう。

モクモク・・・モクモク・・・モクモク・・・モクモク。

モクモク・・・モクモク・・・モクモク・・・モクモク。

モクモク・・・モクモク・・・モクモク・・・モクモク。

食事の音だけが響く「無視するなっ!!」

ジーザース。

お肉を落としてしまった。

仕方ない。

「少しだけ。持ってた。」

「なにか納得いかんが...。」

「ごちそうさま。」

「お風呂入ってくる。」

「ああ。」

入浴中・・・

ゴシゴシ...

ジャボン...

「ふう〜。」

ガラガラ…

風呂から出てリビングによる。

まだキティちゃんは起きてるらしい。

部屋は教えてあるから勝手に寝るだろ。

さて、俺は寝るかね。

「おやすみ。」

就寝の挨拶をして…

「ああ。お休み。」

部屋にいく「待てい!!」

なんだよ。もう、眠いんだよ。俺は。

「夕食がすんだら名前を教えると言っていてだろっ!!!!」

あっ。忘れてた。

「まったく。とにかくこっちに来て座れ。」

仕方ない。渋々だが従おう。

「では、教えてもらおうか?」

どーする？名前考えてないぞ。…ドウシヨウ。

何かないか！名前になりそうなんか！！

「くっ」

「ク？」

「暗い。」

外がね。

「クローリ？」

どうしてそう聞こえた？

「どっ」

「クローリード？」

あれ？名前っぽくなった。不思議。

「ふ。」

「ファ？」

俺、発音悪いのか？

「むー。」



瘦よ。

住処確定した事についての生もの（後書き）

これから一気に時代すすめよ。箇条書きで。

## ログハウスでの生活はむしろ生もの（前書き）

ドモ。生っぽい生のもです。

6話目投稿です。

やっとこ進展の予感です。未だに登場人物二人なのはまずいかな。と危機感を持っていたところでした。

まあ。まだしばらく、主要キャラ二人ですけどねwww

そんなわけで今話もよろしくお願いしやーす。

誤字。脱字。卍。感想。煩惱。賞賛ありましたらどうぞ。

待ってまゝす。

## ログハウスでの生活はむしろ生もの

「・・・おい。聞いているのか？」

チャッス！オリ主ことクローリード・ファム・アーシュライトです。今、ちよつと遅めの朝食を摂っています。

ここに住み始めてから200年くらい経ちます。キティとの生活にも慣れ、平穩無事な生活を楽しんでいます。最初のうちこそ自分が吸血鬼だということ戸惑いのあったキティも、今ではメツキリ遠慮がなくなりました。

最初住み始めたころは、「おい。偶には背中を流してやる。ノノノノ」なんてことを言われ「わかった。」なんて具合に…え？躊躇ちゆうちゆうとか無いわけ？って？あるわけないじゃん。むしろバツチコイツ！！だよ。一緒に入りましたよ。お風呂。

先に裸になつて入つた俺を見て。「お、お、お、・・・お前、男だったのか？」お前っ！！男だったのかー！！」「いや、だいたいわかるでしょ。何言いたいかわらない。

どうやらキティは俺のことを女の子だと思っていたようです。なんとなく気づいていましたよ。面白いから、放置してただけですwww

「ライ。」

あつ。こんなこともありましたね。

夜トイレに行った後。間違つたフリをして、寝ているキティのベッドに侵入しました。キティタン…ハアハア。つてな具合に。お前変態だな。ハッ！癖ひがみかい？癖ひがみなんだろ？ああ。その癖ひがみが気持ち

イイ。

朝起きたキティは期待道理の反応をしてくれました。いやあ。カワユかった。またしよ。

・・・のはずが。ここ最近キティも慣れてきたせ成か、普通に受け入れられます。まあ。それはそれでいいんですがね。お風呂は入ってくれませんが。

あつ！あと二つ。まず。俺が不死であることにキティが気付きました。自分でもスツキリ忘れてたのですが・・・泣かれました。もう一つですが、まともに喋れるようになりました。これは本当に良かった。言いたい事を言えないのは本当に辛い。キティからかえねーし。

そんなこんながあつた2000年でした。

さて。朝食食い終わったし、ダラダラするか「無視するなっ！！」

なんですかー？朝から。そんな感じの目を向けます。

「今日は、一緒に買い物に行く約束していただろ。」

知ってます。

「...忘れていた訳ではあるまいな？」

忘れてませんでしたよ。ただ、無かったことにしたいだけです。

「いえ。忘れてませんよ？仕度してきます。」

「まったく。お前は。」

仕度をしに部屋へ戻る途中「早くしろよ！」などと聴こえてきます。

はあ。忘れる訳ないでしょ。

約束を取り付けた後、あんなにニコニコされてはね。

ここに住み始めてから始めたのですが、もともと莫大な魔力と多大な才能。そして日々の弛まぬ努力のおかげか世界でも屈指の魔法の腕を持つようになりました。初めの内こそ魔法関連の資料が乏しく、思うようにいきませんでした。チヨクチヨク魔法世界に行っては、貴重な魔道書などを集め、余念のない研究のおかげで強力な魔術も無詠唱で発動できます。

さらには、独自の魔法も開発中です。最近は従者や魔法アイテムの製作にも力を注いでいます。世界最強の一角にあることは間違いありません。

今も家の前で魔法の修行をしています。……………キティが。

え？お前はしないのか？つて？しないでですよ。メンドイし……努力？根性？なんですかそれ？意味がわかりません。大体、元々魔力もなかった俺に魔法の才能があるわけないでしょ？  
やってみないとわからない？…いや。やりたくないから、言うてんですけどね。察しましょうよ。それくらい。

さて、そろそろキティにお昼だと知らせなければ。

「キティ。お昼になります。」

「ああ。もう、そんな時間か。集中していたようだ。」

「しかたありません。もうすぐ完成なのでしょう?」

「もう何度か実験をして調整すれば完成するだろう。」

「楽しみです。」

「そうだな…。昼何か食べたいものはあるか?」

「なんでもいいですよ。」

「それが一番困るんだがな。」

「キティの料理はなんでも美味しいですから。」ニコ。

「／／／ちよつと待ってる。すぐ作る。」

「お願いします。」

お前が作るんじゃないの? 作んねーよ。メンドクサイ。最初キティは全然料理出来なかったから、俺が作ってたけど。なんかめんどくなくて。キティに料理仕込みました。そしたら、いつの間にか物凄  
い上達しちゃって。毎回「おいしいですよ。」って言って頭ナデナ  
デしてたのがミソ……原因かな。

こんな感じで、甲斐甲斐しく家事をやってくれています。ログハウス

自体は汚れないから、やることはそんなに多くは無いんだけどね。

こんなキティちゃんもいいでしょ。マジ。カワイイデス。

時間掛けて調教。もとい調教。おんなじか。した甲斐がありました。はい。

## エヴァ Side

ここでの生活もだいたい慣れてきた。あいつ。クローが昔に比べて良く喋るようになったのも大きいだろう。相変わらず表情が乏しいのは変わらないが。何を考えているのか表情からは全く読めんからな。アイツは。

クローの話では100年近く会話をしていなかったせいでうまく喋れなかったのだそうだ。そんな長い間一人だったのか。

衝撃が強かったことと言えばクローが不死だということと。おツ、おツ、男！だった事と／／／／。前者は素直に嬉しい。絶対に私の周りが先に死ぬ。当たり前不変なこと。気にしてはいないつもりだったが、かなりの喜びと衝撃だった。

衝撃と言えば、クローが男だった事も…。／／／／嬉しさと衝撃の二つがあった。

あと、魔法の修行を始めた。真相の吸血鬼とはかなりの魔力を所持しているらしい。

クローに聞いた。最初は、魔力など分らなかったからな。

今は、オリジナル魔法と従者を作っている。どちらも、もうすぐ完成だ。クローに見せたら驚くだろうか？どんな顔をするのだろう。早く見てみたい。

しかし、あいつの笑顔は反則だ！！普段から美しいきれいだとは思うが。あの笑顔をされると。きゅんっ！して、お願いを聞いてします。あいつはそのことを分っていて使っている節がある。そのことに最近気付いた。からといってどうしようもないのだが。

そうだ！今日はこの後、町に行くのだった。

### Side Out

お出かけから帰ってきたキティに、「指輪の礼だ。／＼／＼」と、リボンを買がれ・・・もらった。婚約指輪！？そうです。むしろ首輪www

嘘こきましたけど何か？

魔法媒体用の指輪です。新しいのを能力で作りました。杖って邪魔でしょ。

- ・魔法媒体に使用できる。
- ・使用者の魔力を増幅する。
- ・満月の月光ひかりを浴びせると、30日間満月の夜と同じ効果を発揮する。

キティ専用ですから。

ああ。リボンは。

神を・・・髪を縛るのに使え。だそうです。俺が髪を邪魔そうにしていたので、気を使ってくれたようです。シンプルな橙色のリボンです。まあ、これならいいでしょ。レースのヒラヒラとかなら、梱包用に使うところでした。

さて、ここでの生活もそろそろ飽きてきたのでどこか別のところに行きたいと思います。と言っても目的地は決まっています。

日本。

あそこで、どうしてもやらなくちゃいけない事があるんですよ。  
これからの為に。

行くついでに、色々回っていきますか。 . . . . . 世界  
を . . . . .

ログハウスでの生活はむしろ生もの（後書き）

・・・。

新たな生活そのものが生もの（前書き）

ドモ〜。生っぽい生のもです。

7話目投下です。

0時に投下したかったのですが、ネットに繋がりませんでした。  
最近PCの調子が最悪で。

ココ一年くらい・・・。

再起動連打で何とか繋がりました。

よかった。

そんな訳で今回もヨロシクっす。

## 新たな生活そのものが生もの

自分の才能が恐ろしい今日この頃。  
クローです。

世界放浪も一区切りつきました。今は・・・

はい。世界樹の前にいます。ほんとにまん前です。100?くらい。

「おい。どうした?」

「いえ。別に気にしないで下さい。」

「?、そうか?」

「そうです。」

なんで、こんな所にいるかというと、ここら辺一帯の土地を大人買いしました。将来、麻帆良学園都市になるであろう範囲をカバー出来るだけのを。

地主のみなさんには大変感謝しています。この場を持って深く御礼申し上げます。あと。一部ご冥福もお祈りします。

なぜ、このような大量の土地を手に入れたのか?それは、来る<sup>きた</sup>未来。この土地に目を付け遣ってくるであろう魔法使いどもから、世界樹を守るう。という建前を前面に押し出して、将来高値で土地を貸しだそうと思っているからですwwww

そのためには、ここに来るだろう魔法使いより早く、土地を手に入る必要があったのです。早く来ないかな？お金の人達。」

「それで、そろそろ住む場所を決めた方がいいだろう？」

「そうですね。」

「確カニ、コノママジャ野宿ニナリカネナイゼ。」

はい。みなさんご存知チャチャゼロです。この際なので、名前を付けるとき「サクリファイス・ゼロとかどうですか？」など、提案してみたのですが。却下されました。見事なまでに。いいと思うんですけどね。サクリファイス・ゼロ。犠牲者なしあの森を出てすぐに完成しました。

「では、この辺でいいですか？」

「そうだな。いいだろう。」

「オレハ、何処デモ構ワナイゼ。」

ちょうど、平らで開けた場所があったので、地面を綺麗にして例の

ログハウスを建てることにします。

「では。……ハイ。ドーン。」

「……。」

「……。」

なんすか？

「何度見てもめちゃくちゃだな。」

「ソノ掛ケ声、ナンカ意味アンノカ？」

「特には。」

「……。まあ、いい。」

「私は夕食の準備をしよう。」

日も傾き始めているからな。時間的にはちょうどいいだろ。え？手伝わないのか？ ハイハイ。手伝いませんけど？

あの森での生活を辞め、300年ほどが経っている。

世界も色々見てまわりましたよ。もちろん魔法世界にも行きました。一番長く居たかな。色んなことをしながら楽しく生活していました。一種の旅行気分です。

キティは、とてもはしゃいでいました。なんだなんだで今までの鬱憤が溜っていたのでしよう。あのように人の多い場所での生活は久しぶりでしようから。

おかげで、かわいいあだ名がたくさん付きました。『闇の福音』、『ダーク・エヴァンジェル人形使い』、『ドル・マスター不死の魔法使い』、『マガ・ノスフエラトウ悪しき音信』、『あしきおとすれ禍音の使徒』、『わらべすがたのやみのまおう童姿の闇の魔王』、『エターナル・ロリータ不変なる至宝』。あつ。最後のは俺が流しましたWWW

俺の二つ名は…ここでは省略します。語られることは二度と無いでしょう。

賞金も掛けられています。キティが600万ドル。俺が1,000万ドル。あるえー？なんで俺のが高いの？

キティ曰く「お前のやることは、エゲツない。」だそうです。ソウカ？

さて、ここで暮らすこと10年。ついに目的の金ズ……魔法使いがやってきました。どれ、お迎えに行きましょう。

「クロー。気づいているな？」

「ええ。もちろん。」

「追いつますか？」

「いえ。まずは様子を見ましょう。」

「オレニ、解体サセロ。」

「場合によってはお願いします。」

「様子を見てきます。」

おっ！見えてきた。福沢さんと野口さんですね。

正面に移動しますか。

「何かご用でしょうか？」

「!！」

「っ！」

「あなたは？」

あらら。正面に立つまで認識阻害掛けてたから、警戒されちゃった。突然人が目の前に現れれば仕方ないか。あちらの世界に関わっているなら尚更。

「ここに住んでいる者です。」

「ここに？」

まあ。こんな森深くに住んでいれば疑問にも思つか。いちをこの土地には認識阻害の結果がはってあるけど、気づけないように魔法ではなく能力で張ってる。<sup>アイテム</sup>

一般人に無駄に来てほしくないからね。魔法関係者は認識阻害の対象外にしてる。金ズ……もう金ズルでいいや。が気付かないのは困るからねwww

「知りませんでしたか？ここ一帯は私有地ですけど？」

「私有地……。」

「では、その持ち主の方にお会いしたいのですが。」

「……。」

「いきなりやって来た、我々を信用できないのはわかっています。」  
「しかし、決して怪しい者ではありません。」

「それを、信用しろと?」

私は怪しい者ではありませんので、ここの主人に合わせてください。  
なんて言って、いきなり来る者を信用しろと?無理ですよね?一体  
どういう発想をしてるんだか。

こっちは、大体の見当は付いてるんでいいですかでね。…もう少し  
渋りますか。どっちが立場的上か意識させる為にも。交渉が遣り  
易くなりますから。

「では、せめて名前くらいは名乗ってはいかがですか?」

「!…これは失礼しました。」

「私は魔法協会のミカエル・ノチエンティーニと申します。」

「彼は連れの近衛 近右衛門です。」

「魔法協会?」

ええ!!このガキンちよが近衛 近右衛門!?マジで!?!あの有名なぬらりひょん。

「魔法協会とは。世界に秘匿されている魔法。それを操る魔法使い  
をまとめ活動を支援していく組織の事です。」

「その魔法協会の方がいか用で?」

「はい。最近、この国にも魔法協会の支部作るうということになりまして。」

「まだ、どこの組織も出来ていないこのあたりに支部を作れそうな場所を探していました。」

「なるほど。それで？」

「そうしていたら、この近くから莫大な魔力を感じ遣って来たのです。」

「その魔力の原因の調査。あるいはそれを利用して支部の建設。」

「そのとおりです。」

大方。予想道理。

ぬらりひよんはヨソウガイ。

「それで、福ざw…ミカエル・ノチェンティーニさんはこの地主にどんなご要望が？」

「この土地を売って頂きたいと。」

「分かりました。ご案内します。」

「ありがとうございます。」

そんな感じで我が家ことログハウスに福沢さんと野口君を招いて  
います。

「あの、地主の方は？」

今、ログハウス一階のリビングにあるソファアールにて俺とミカエルさん  
が向かい合っています。俺の右隣にキティが座り。ミカエルさん  
の左隣にぬらりひよん。近衛 近右衛門

「私ですが？」

「は？」

「ですから。私がこの土地の地主です。」

「…あなたが？」

「そうですね。何か問題でも？」

「いえ！問題はありません。」

ま。予想道理の反応だね。キティはちょっとムカッって顔してるけど。

「クローリードと申します。」

「こっちが、エヴァンジェリンです。」

「私も改めて名乗らせていただきます。」

「魔法協会のミカエル・ノチエンティールと申します。」

「横にいるのが、近衛 近右衛門です。」

ぬらりひょんがペコリと頭を下げてる。

「それで。ご要望というのは、この土地を売ってほしいとの事でしたね？」

「……」

おーおー。キティちゃんの顔がさらに険しくなってますよ。

殺気でまくり。ちよっと相手引いてるよ。

俺はどうやって土地の賃貸料を釣り上げるかで頭一杯だからどーでもいいんだけどね。

クローが、招かれざる客を家に連れてきた。どちらも魔法関係者のようだ。まあ、そうでなければここには入れないらしいのだが。自分の名前と、私の名前をやつらに教えたい。クローは他人に自分の名前。特にフルネームで教える事を極端に嫌う。理由はしらん。昔調子に乗って名前を呼んだ瞬間二つになった奴が居る。愚かだ。だが、今回は教えた。それなりに利用価値のある連中ということか…。

しばらく黙って成り行きを見ることにしよう。

魔法協会！！こんな極東まで…。

そんな奴らがこんな山奥までご苦労な事だ。

まあ。それだけの価値があるのだからうけどな。あれには。ここからは壁に挟まれて見えないが、膨大な魔力は感じる。……確かクローはこう呼んでいたな。

世界樹。

「それで。ご要望というのは、この土地を売ってほしいとの事でしたね？」

「!！」

なっ!!!

こうなる事を見越して、この付近の土地を買い漁ったのか。

たしかに、悪用されれば大変な事になりかねん。クローに聞いても、あの木が一体何なのかまでは分らない。と言っていたしな。

将来的には、外から魔力を探知できないようにするとも言っていたが、すぐにしなかったのはこういう奴らにココを見つけさせる為。世界樹しかし、なぜそんな回りくどい事を…？

「はい。もちろん、出来る限りのお礼はさせて頂きます。」

「お断りします。」

「…なぜでしょうか？」

「この土地を手放す積りが無いからです。」

「…もちろん。我々にあなた方を追い出す積りは有りません。」

「この土地に魔法協会の支部が出来た後も、ここに居てもらって構いません。」

「……。」

目の前のバカは自分の置かれている立場を分っていない。…状況も。

「これだけの土地を、あなた方お二人で管理するのは大変でしょ。」  
「しかし、ここに魔法協会の支部が出来れば、人出が確保できます。」  
「  
「大変な土地の管理もしなくて済みます。あなた方は大変な思いをせず、ここで暮らせます。」

やはり、何もわかっていない。お前らは、こう言っているのだ。

この土地は我々が管理する。お前たちは何もするな。  
その代わり、ここに住まわせてやろう。

何様の積りだ！！ヤロウと思えば、今すぐにも貴様をココで縊<sup>くび</sup>り殺せるのだぞ！

これ以上、下らないことを言っようなら。「」「お断りします。」  
「  
フン。ざま〜みる。

「どうしてもですか？」  
「  
しつこいぞ。

「ええ。」  
「  
「……。」

何だ？別の交渉材料でも出してくる気か？  
無駄だ。無駄だ。

「そういえば。」

「?」「?」

「お二方のお名前、聞いたことがありました。」

「確かこう呼ばれていましたね。『闇の福音』と『ズ、つつ!!!』」

悪手。

侵してはいけない境界線。

奴は触れてはいけない逆鱗に触れた。

おそらく、魔法世界での私達の立場を利用して、強引に事を運ぼうとでもしたのでろう。

「殺しますよ?」

先ほどまでと変わらない声音。

しかし、そこに込められているモノ。

おびただ  
夥しい殺気。

逆らうことを許さない。圧倒的にして絶対的な強者のそれ。

未だに慣れんな、これには。……強くなったと自負しているのだが  
な……

結局、交渉はこちらの思惑道理に行った。と、クローが言っていた。あの後、奴の謝罪の言葉によって場は沈静化した。とはいえ、恐怖は残っているだろう。交渉を続けるどころではない。そんな、状態の中食らいついたと思う。あの魔術師は、連れのボイヤなどは、泡を吹いて気絶していたからな。

最終的には、世界樹を悪用しない。必要最低限の使用は認めるが戦闘行為やそれに準ずる事は禁止する。基準はこちらで判断する。我々に不必要な干渉をしない。不必要な干渉があった場合。その後、何があっても我々に一切の責は発生しない。この二つが破られた場合。こちらはの敵対行動とみなす。この条件のもと、この土地は奴ら魔法協会に貸し出すこととなった。まあ。奴らも土地が手に入らないという最悪の事態は避けられたのだからいいだろ。

ただ。かなり高額な貸し出し料になっていたが。クローは、最初からこういう結果になるように仕向けていたのだろう。相変わらず、遣り口が悪どい。

S  
i  
d  
e  
  
O  
u  
t

新たな生活そのものが生もの（後書き）

すでにネタがつきできた・・・。

ドウシヨウ・・・。

お出かけ 前編の生もの(前書き)

生っぽい生のもです。仕事チヨー忙しい。

書く時間がほんとに無い。ネタがまとまらない。マジでヤバイ。どうしよう………

週一くらいで更新できたらいいな。

乙。

## お出かけ 前編 ｴ 生もの

概ね、予想道理の結果になりました。予想外の事と言えば、思ったより高い金額で土地が貸せたという事だ。あのビビリ様、マジうけるんですけどwwwビビリ様々。

向こうの世界では魔法協会に極力関わらないようにしていたのが、こんな所で役に立つとは。福沢君も俺たちが脅威に感じるとでも思ったんですかね。ただ、面白く無さそうだから無視してただけなんです。こつちには闇の福音が要るんですよ？魔法協会何ぞ畏るに足らず！わはははは！

そんな訳で最近では、魔法協会の関係者がよく出入りするようになり、大規模な開発が行われています。

世界樹を中心に大規模な都市計画を立てているようです。

麻帆良学園都市の建設開始である。

地主である俺達にも魔法協会から都市計画の説明は行われた。俺たちの事を良く思わない連中もいたが、今のところ目立った動きはしてきてない。

今のところは泳がしておこう。向こうも此方の事を世界に公開していないようだ。そんな事をすれば大変な目に会うのは向こうだからな。

それはさて置き。今現在、俺は興ふん…緊張している。何故か？と問われれば説明します。え？別にいい？

おk。わかった。言い直そう。

説明をする。ん？違うか？説明をしよう…。説明をさ…せましよう…。説明を…させて…下さい…。

説明します。

今、俺達が住んでいるログハウスの一階リビング。木目が美しい板張りの床の上には、光輝く線で1.5m程の円が描かれている。その円の中には幾何学的模様が同じく光る線で書き込まれている…いわゆる魔法陣だ。

その魔法陣の中には俺と、目を瞑り俺に向かって唇を突き出す真っ赤な顔でプルプル震えるキティ。

頂きます。

「……」。一ポーーーーー……。「キティ聞いてますか？」《ハッ！

「な、何だ!？」

「カードのコピーが出来ましたよ。」

「確認して下さい。」

「あ、ああ。そうだな。／／／／」

「次はキティが主の番なんですから。」

「っ！わ、分っているっ！！／／／／／」

「はあはあはあ…ク、クローツ！！どっいつつもりだ！！！！」

「何がですか？」

「い、い、今の、き、け、契約の事だ！！／／／／」

「何か問題がありましたか？」

「契約はきちんと成功しましたが？」

「そうではない！！そ、その…／／／き、き、き、／／／／／」

「キスの事ですか？」



「分りましたから。」

「それより、カードのコピーを下さい。」

「く、分った。今作る…。」

「……ほら、出来たぞ。」

「有難う御座います。」

まあ、夜ベットでの下りは後でしっかり実行して置きましょう。ゴツチャンデス。

今までのやり取りは、皆さんご存知！女の子と合法べろちゅちゅ〜が出来るパートナー契約です。

そんなことするのはお前だけだ？問題でも？？

あつ。カードこんなになりました。

名前表記	ATHANASIA	ECATERINA	MACD
OVELL	EVANGELINA		
称号	・人形使い		
色調	・スミレ色		
徳性	・信仰		
方位	・北		
星辰性	・冥王星		
アーティファクト	・ブリーシングの首飾り		

名前表記            CLORYD FAM EARTHLIGHT  
 称号                ・創造作者  
 色調                ・白金  
 徳性                ・統率  
 方位                ・南  
 星辰性             ・月  
 アーティファクト    ・皇帝の勅命

「クローのカードはほとんど其のままではないかwww」  
 確かに。逆にキティのは納得いかん！

名前表記            ATHANASIA ECATERINA MACD  
 OVELL EVANGELINA  
 称号                ・エターナルロリ  
 色調                ・肌色  
 徳性                ・幼女  
 方位                ・ロリに方位の区別なし！！  
 星辰性             ・合法性  
 アーティファクト    ・YISSロリータ！YISタッチ！！  
 （最低）

こんな感じになると思ってたのに。  
 おかしいな？

そもそも、なんでパートナ契約（仮）をする事になったんだっけ？

という方の為に、もし一度説明します。まったく、仕方ないな。

え？まだ、説明されてない？説明してないから当然じゃないか。なんですか？

～～回想～～

エヴァ S i e d

「キティ。今日は大事な話があります。」

「…何だ？」

クローの朝食を作り終え、リビングで紅茶を飲んでいると、朝食を食べながら話しかけてきた。どうでもいいが大事な話なら食い終わってからにしろ。…そんな気持ちが伝わったのか、急いで食事をかたづけ始める。

大事な話な。一体なんだ？ム〜〜〜。はっ！ま、ま、まさか！？  
こ、こ、こ。

「キティ。」

「！！」

いつの間にかにクローが、私の横に座って此方をジッと見ているな、何だ！！その真剣な顔は！！／／／／か、顔を近づけるな！／／／／／

「貴女と出会ってから多くの時を共に過ごしました。色々な所に行き、多くの経験をしました。」

「あ、ああ。／／／／／」

「ここに住み始めてからもそれなりの時間を過ごしました。そろそろ頃合いかと思えます。」

「んむ。／／／／／」

「ですので決心しました。この思いをキティに告げよう。」

「！！！！」

「……………」

「……………」

「旅に出ます。」

「……………は？」

「ですから。旅に出ます。」

「……………」

「キティ？」

「……………」

「……………」



「おいまで！クローー！！なんで私を置いて行くんだ！？いつも一緒だったじゃないか！！私の嫌いになったのか？何か気に障る事でもしたのか？もし、そうなら言うてくれ！！治すから！だから、だから、私を置いて行くなんて…言わないでくれ…」

「なんで！なんで！！どうして！！今まではずっと一緒に旅をしてきたのに、なんで、今回は私を置いて行くんだ！？私なんかの事なんてどうでも良くなったのか？嫌いになったのか？やはり、吸血鬼だからなのか？クローー……。」

「キティ。キティ、落ち着いてください。」

「入らないなら、入らないと、そう言うてくれれば…。わざわざお前が出ていなくても…私が！！」

「そうではありません。」

「どっ、違つというのだ！！」

「この地を二人一緒に離れるわけにはいきません。魔法協会が何をするかわかりませんからね。なので今回は、一人で行くことかなと思っています。」

「私を置いてか。」

「お留守番と言ったでしょ？置いていく訳ではありません。ちょっと出かけてくるだけです。」

「本当か？」

「本当です。それに、」

「それに？」

「キティを嫌いになったり、ましてや、入らないなんてことはありませんよ。キティはとても大切な存在ですから。キティが嫌だと言っても決して話しませんよ。それにキティ以外の人間なんて、今の所はみんな虫けらと変わりませんし。」ダキツ ギユ

「////////////////////」

「分って頂けましたか。」

「ああ。」

「有難うございます。しかし…。」

「？」

「今回は私の配慮の無さで、キティを悲しませてしまいました。」

「ち。違う！！これは私が勝手に勘違いしただけで、」

「それでも、もう少し気をつければ…。」

「クロー…。」

私を大切だと言ってくれた事は、とてもうれしい。今まで一緒にいたが面と向かって言葉にされた事はない。ほんの少し不安があった

事は事実だが、自分でもここまで、取り乱すとは思わなかった。それほど、私がクローに依存しているという事なのだろうか。

悪くない。

だが、そんな私の都合でクローを悲しませるのは本意ではない。だからもうその事は気にしなくとも。

「決めました。」

？

「キティ。一緒に行きましょう。」

「へ？一緒に行く？」

「はい。」

「だが、さつき魔法協会がどうのよ。」

「はい。ですので代替りの者を、ここに残していきます。」

「変わり？そんな者がいるのか？」

「ええ。います。本当はもう少しちゃんとした形で紹介したかった

のですが。仕方ないでしょう。」

「どうということだ？」

「それは…お楽しみです。」

ここまで言うからにはきちんとした当てがあるのだろう。まあ、クローの事だから心配はしていないが。それより、一緒に行けるのか…ククク。

そういえば何処に行くのだ？

「クロー。」

「何ですか？」

「そういえば、何処に行くのだ？」

「魔法世界です。」

「魔法世界？」

なんでまた、あんなところに。昔散々暴れまわったからいまさら行つても、目新しい者は…。

「ええ。今、魔法世界で不穏な動きがあります。」

「不穏な動きだと？そんなもの、多かれ少なかれ昔からあったらろっ？？」

「今回はかなり大規模な事になるかと。1000年戦争以来かと。」

「!!!」

な！あれ以来の大規模戦闘…いや、戦争。一体魔法世界に…

「まあ。そのような訳でして、少し遊びに行こうかなと。黒幕の顔も見たいですし」

クローは何を知っているんだ？

「黒幕？クロー何か知っているのか？」

「それなりには、追々教えますよ。いいじゃないですか、ちょっとした暇つぶしです。」

魔法世界の大規模な戦争も、お前にとっては単なる暇つぶしか。

「そこでなんですが、」

「ん？」

「今回、急遽キティも行くのとなりましたので、多少の安全対策を講じ様かと。」

「安全対策？」

「ええ。向こうで逸れては大変ですからね。」

「私は子供か!!!」

「いえいえ。そんなこと思ってないですよ?」

なぜ、疑問系…

「実際は、戦争の規模もかなり広範囲になると思いますので念のためです。」

念のため。ねえ。

「で、何をするんだ?」

「それは………パートナー契約です。」

「パートナー契約?!?!」

あのお互いにチユ。とやるやつではないか……!

「ま、まて!!まだ心の準備が!!」

「全は急げ!すぐやりますよ。」

「魔法陣を描くな!!待てと言つに……!!……!!」

S i e d o u t

〃〃回想終了〃〃

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1428t/>

---

原作なんですかそれ？好き勝手やりますけどなにか？

2011年5月23日00時06分発行